

## 行列の転置

- 行列  $A$  の行と列を入れ替えた行列を「 $A$  の転置行列」といい、 $A'$  と書く。

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \xrightarrow{\text{転置}} \begin{pmatrix} a_{11} & a_{21} & \cdots & a_{m1} \\ a_{12} & a_{22} & \cdots & a_{m2} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{1n} & a_{2n} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

- $A$  の第  $j$  行は、 $A$  の第  $i$  列。
- $A$  の第  $i$  列は、 $A$  の第  $j$  行。
- $A$  が  $m \times n$  型ならば、 $A'$  は  $n \times m$  型。
- $a = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ ,  $b = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$  に対し、 $\langle a, b \rangle = a_1 b_1 + a_2 b_2 = \langle a', b' \rangle$ 。
- $A' A = A$  を満たす行列  $A$  を対称行列という。
- $A' A = -A$  を満たす行列  $A$  を交代行列という。

クォータ科目「数学」第10回(担当:佐藤 弘康) 1/5

## 逆行列 (1)

- 正方行列  $A$  に対し、

$$AB = BA = E$$

を満たす行列  $B$  を、「 $A$  の逆行列」といい、 $B = A^{-1}$  と書く。

- 【2次正方行列の場合】 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  に対し、 $A^{-1} = \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix}$  とおくと、

$$E = AA^{-1} \iff \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ax+by & az+bw \\ cx+dy & cz+dw \end{pmatrix}$$
$$\iff \begin{cases} ax+by=1 \\ cx+dy=0 \end{cases} \quad \text{かつ} \quad \begin{cases} az+bw=0 \\ cz+dw=1 \end{cases}$$

2つの連立方程式を解くことにより、 $A^{-1} = \frac{1}{ad-bc} \begin{pmatrix} d & -b \\ -c & a \end{pmatrix}$  を得る。

クォータ科目「数学」第10回(担当:佐藤 弘康) 2/5

## 逆行列 (2) – 正則行列 –

- $A$  が正方行列ならば、必ず逆行列  $A^{-1}$  が存在するだろうか？
  - 零行列の逆行列が存在しないことは明らか。

事実

$AB = O, A \neq O, B \neq O$  を満たす行列  $A, B$  は逆行列を持たない。

$\therefore A^{-1}$  が存在すると仮定し、 $AB = O$  の両辺に左から  $A^{-1}$  をかけると、 $B = O$  となり、 $B \neq O$  の矛盾する (背理法)。

- 正方行列  $A$  の逆行列が存在するとき、 $A$  を正則行列とよぶ。

事実

$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  が正則であるための必要十分条件は、 $ad - bc \neq 0$  である。

クォータ科目「数学」第10回(担当:佐藤 弘康) 3/5

## 逆行列 (3) 応用例：連立方程式の解法

- (前回) 連立方程式は  $Ax = b$  と表すことができる。  
ただし、 $A$  は係数行列、 $b$  は定数項ベクトル。

事実

$A$  が正方行列、かつ正則 (つまり、 $A^{-1}$  が存在) のとき、 $Ax = b$  の解は  $x = A^{-1}b$  によって与えられる。

$\therefore Ax = b$  の両辺に左から  $A^{-1}$  をかけることにより、

$$x = Ex = (A^{-1}A)x = A^{-1}(Ax) = A^{-1}b$$

を得る。

クォータ科目「数学」第10回(担当:佐藤 弘康) 4/5

## 特別な行列 (2)

- 基本行列：3種類の特別な正方行列
  - $A(i, j : c)$  :  $(i, j)$  成分が  $c$  で、他は単位行列と同じ。
  - $P(i, j)$  :  $(i, j)$  成分と  $(j, i)$  成分は  $1$ 、 $(i, i)$  成分と  $(j, j)$  成分は  $0$ 、他は単位行列と同じ。
  - $M(i : c)$  :  $(i, i)$  成分が  $c$  で、他は単位行列と同じ。

—— 行列の基本変形 ——

基本行列  $M$  を行列  $A$  に左 (右) からかけた行列  $MA$  ( $AM$ ) は、 $A$  の

- 第  $j$  行 (第  $i$  列) の  $c$  倍を第  $i$  行 (第  $j$  列) に加えた行列
- 第  $i$  行 (列) と第  $j$  行 (列) を入れ換えた行列
- 第  $i$  行 (列) を  $c$  倍した行列

クォータ科目「数学」第10回(担当:佐藤 弘康) 5/5